

タイムラグ

JJ1SXA/池

NHKのテレビの時報の画面は、最近では数字のみです、一寸前まではデジタル画像ながら針がついていて、午前7時、正午、午後7時などの正時少し前から、文字盤の秒針が動き「ポッ、ポッ、ポッ、ポーン」と音がでていました、聞きようによっては「トッ、トッ、トッ、ツー」(V)と聞こえました。(何も無理にモールスで聞くことは無いのですが・・・)

それ以前、平成3年ごろまでは、実物のアナログ時計を写していたようで、現在は、NHK放送博物館で「テレビ画面時計」という名称で展示されているようですが、大きさは、名刺よりもふたまわり大きいサイズで、針もちゃんと動くようです。

ブログツール「NHK時計」が公表されていて、簡単な登録で無料で使えるようになっていますが、この「テレビ画面時計」を忠実に再現したものだそうです。

ちなみに、240のホームページにも貼り付けてありますが、時刻はあくまでも、それぞれのパソコンの内部時計の時刻ですので、パソコンの時計の時刻をいつも合わせておいてください、この、ブログツール「NHK時計」を実物にしたものが発売されています。(セイコークロック製、青版と木目版があり、共に税込価格¥10,290)

時報の画面が消えたのは、デジタルテレビが始まったので、時計型時報を画面に出すわけにはいかない事情ができたからです、タイムラグの問題です。

地上波デジタルテレビ放送の場合、映像音声信号データを圧縮、回線に送り出し、拠点放送局9局、さらに地方局を経て受信側で元に戻す「エンコード、デコード」に処理上の時間遅れがあるため、アナログテレビ放送とは違い、時計型時報はできなくなってしまったのがデジタル放送局側の実状です。(衛星デジタル放送の場合は、さらに距離による電波の遅れを考慮して、少し先に時報を送っているようです)

タイムラグは、我々が通常交信している、50MHz では全く感じませんが、厳密には電波の速度があり、距離があるので電波の到達までには若干の時間差はあるのですが、非常に短時間のことで体感できないでしょう。

他の周波数、モード等によっては、直接電波の到来する無線でも、少しずつ違うことでしょうし、インターネットを使うVoIP無線では、タイムラグは顕著です。

eQSOでは、それぞれの回線速度にもよりますが、相当のずれがあり、パソコンの画面を見ていなければ、通常のブレイクタイムでは間に合わず、ダブル送信になってしまうのも止むを得ないことです、また、便利に使っているSkypeでは、通常はタイムラグなど感じずに会話をしていますが、リモートシャックを運用してみて、このタイムラグに気がきました、無線とパソコンのSkypeの音声を同時に聞いているとわかります。

そんなことはどうでも良いのですが、自分の頭の回転のタイムラグを何とかしなければいけません、加齢と共にタイムラグが大きくなってきました。